

新潟市文書館だより

2023.1
NO.1

「文書館だより」の創刊にあたって

新潟市文書館は、令和4年1月8日に開館し1周年を迎えました。日頃より市民の皆様をはじめ関係各位の皆様のご理解・ご協力によるものと深く感謝申し上げます。

文書館は、歴史的に重要な公文書等を適切に保存し、市民の皆様などに広く利用していただくための施設として、資料の利用提供をはじめ、講座の開催や資料の展示等による新潟市の歴史に関する情報発信に努めています。

このたび、文書館の活動や所蔵資料を紹介する「文書館だより」を発行する運びとなりました。この便りが、より多くの方に新潟市文書館を知ってもらい、ご利用・ご活用のかきかけになれば幸いです。

今後も、文書館の活動が皆様の新潟市の歴史に関する調査・研究の一助となり、皆様に愛される新潟市文書館であるよう努めてまいりますので、引き続き、ご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



文書館のご紹介

文書館では、保存年限が満了し、市役所各課から移管を受けた行政文書や、市民の皆様から寄贈を受けた資料を所蔵しています。これらの資料は、利用申請に基づき、必要な審査の後、閲覧や複写により利用いただけます。また、文書館で所蔵している図書などの刊行物は、閲覧室にてどなたでも閲覧いただけます。

資料の申請方法や申請に必要な様式は、文書館ホームページに掲載しています。なお、資料のお探しにあたっては、窓口、電話でのお問い合わせのほか、「新潟市文書館所蔵資料検索システム」にて、資料の有無をパソコンやスマートフォンから事前に検索することができます。是非、ご活用ください。

その他、文書館では、講座の開催や資料の展示による情報発信をはじめ、新潟市の歴史に関する調査にも応じています。

令和4年度 企画展「萬代橋三代のあゆみ」

会期：令和4年8月6日(土)～令和5年3月25日(土)

現在、新潟市のシンボルであり、ランドマークの一つである萬代橋をテーマにした企画展を開催しております（観覧無料）。また常設展では、新潟市の通史を紹介した展示を行っています。あわせてぜひご覧ください。

▼ 主な展示写真



▲ 初代萬代橋
(資料番号 50003787)



▲ 二代目萬代橋
(資料番号 50003789)



▲ 建設中の三代目萬代橋
(資料番号 50003794)



▲ 現在の萬代橋

資料の利用方法

「新潟市文書館」で検索



当館所蔵資料の検索

「新潟市文書館所蔵資料検索システム」で検索



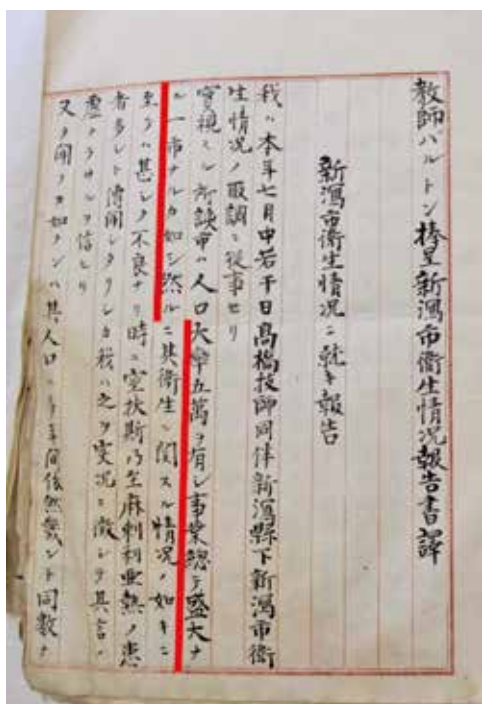
所蔵資料紹介「新潟市上水道敷設関係資料」

水道水は、現代の生活において欠かせないライフラインの一つです。蛇口をひねると綺麗な水が出てくることは、現在では当たり前になっています。新潟市に上水道が整備されたのは明治時代で、これに関連する資料が文書館に保存されています。「新潟市上水道敷設関係資料」は、明治時代から昭和初期にかけて作成された、新潟市の上水道敷設に関する文書・図面・写真類などの行政文書が中心で、新潟市水道局に保管されていました。資料は全部で258点あり、明治時代以降の新潟市の水事情を知ることができる貴重な資料として、県の有形文化財に指定されています。

①は、この上水道関係資料に含まれている綴りの表紙を写したものです。「第五號 旧書類永久保存 水道ニ関スル書類 新潟市水道部」の文字が見えます。これは明治27(1894)～明治34(1901)年にかけて作成された綴りで、様々な文書や図面類がまとめられています。②は、その中に綴られているある報告書の冒頭部分です。明治27年、上水道の敷設に先立ち、新潟市の上水道敷設等について調査が行われました。この調査



▲ ①「水道ニ関スル書類」
(資料番号 20220667)
厚さ3～4センチの綴りには、上水道設置に関するあらゆる資料がまとめられている。



▲ ②バルトンの報告書冒頭部分
「其衛生ニ関スル情况ノ如キニ至テハ、甚シク不良ナリ」とある。

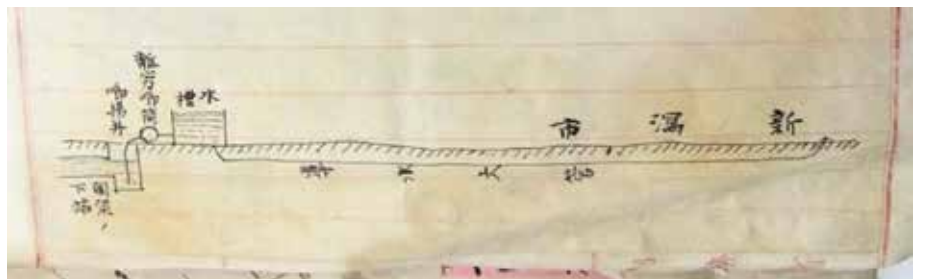
は新潟市が内務省のお雇い外国人のイギリス人バルトン技師に依頼し実施されました。

報告書は全40頁にわたるもので、合計13の項目に分けて記録されています。中でも「新潟市衛生情况ニ就キ報告」「現今ノ日用水」等の項目では、当時の新潟において、いかに水道の整備が求められる状況であったのかが分かります。バルトンは、新潟市について「人口5万を超える発展めざましい都市だ」としつつも、衛生面に関する状況については、「甚だしく不良」としています。

水道ができる前の新潟では、生活に必要な水を堀や信濃川、井戸の水に頼っていました。人々は堀端に作られた河渡へ集まって米を研いだり、野菜や食器を洗ったりしていましたが、その堀の水は決して綺麗なものではありませんでした。バルトンは報告書において、「ほとんど流れず、腐った水で満たされ、下水の汚染物が入り込み、比較的良いものでも使うべきではない。」と堀の水の様子を記録しています。このような衛生状態に加え、大火などの災害に備えるためにも水道の敷設は急務でした。

バルトンは、市民が信濃川や堀の水を飲用している新潟の現状を批判し、これに代わる上水道の設置方法や下水の在り方について提言しました。バルトンは上水道について関屋の地下水を水源とする方式を提案し、その方法、設備など報告書の中で具体的に説明しています(③)。

結果として明治43年(1910)年に新潟市に近代水道が開通した際には、信濃川を水源とする方法が取られ、地下水を水源とするバルトンの提言は採用されなかったものの、これらの調査や具体案の提言は、新潟市の上水道敷設計画に向けての最初の第一歩でした。



▲ ③バルトンは、上水道の設置について、図をまじえながら提言している

二次元コードを読み取ると、本頁に掲載の資料の詳細を確認できます。

掲載の資料を利用する場合は来館または電話の際に資料番号をお伝えください。



文書館ってどんなところ？なにができるの？

歴史的に重要な公文書（特定歴史公文書）等を利用するというと、歴史の研究者や専門家が利用するといったイメージをもつかもしれませんが、文書館が所蔵する資料は誰でもみんな同じように利用することができます。読むのが難しいものは文書館職員が手伝ってくれます。大人だけでなく小中学生のみなさんも、様々な学習の機会新潟市文書館を活用してみてください。

【例えばどんなことを調べることができるの？】

●新潟市の歴史

- ・萬代橋っていつからあるのだろう？
- ・昔の新潟の人たちはどんな暮らしをしていた？

●地域の歴史

- ・住んでいる地名の由来って？
- ・近くに流れている川は昔どのような形だった？

また、文書館は昔の資料を利用するだけでなく、電話やメールで新潟市の歴史についての質問も受け付けています。実際に文書館に寄せられた質問を紹介します。

「赤道」ってなんで「あかみち」っていうの？

新潟市東区にある、国道113号平和町交差点と、新潟バイパス竹尾インターチェンジを結ぶ県道は「赤道」と呼ばれています。この道路は、第二次世界大戦中の昭和17（1942）年に作られはじめました。路面には現在のようなアスファルトではなく、山ノ下の硫酸工場から排出される「パイライトさい」が使用されました。このパイライトさいが赤い色だったため、実際に赤い道が誕生しました。昭和30年代半ば以降、パイライトさいが使われなくなり、赤い道ではなくなりましたが、現在でも「赤道」と呼ばれ続けています。

おうちで文書館の資料を見てみよう。

文書館には古文書などの古い資料のほかに、昔の写真もあります。一部の写真は学校やおうちのスマホ、パソコンで見ることができます。写真はダウンロードすることもできるので、ぜひご利用ください。

どんな写真があるの？

昔の新潟の様子分かる写真があります。例えば下の写真は、白山神社（写真左）、萬代橋（写真中央）と昭和39（1964）年に起きた新潟地震（写真右）の写真です。



ほかの写真も見てみよう

もっと知りたい！

新潟市文書館

検索

（写真が表示されるまで時間がかかります）



白山神社
白山公園



萬代橋



新潟地震

写真の調べ方と見方

「新潟市文書館所蔵資料検索システム」と検索するか1頁の二次元コードを読み取ると、写真を検索することができます。「検索の仕方がわからない」、「こういう写真がほしい」などお困りのことがありましたら、文書館にお問い合わせください。

令和3年度企画展から ～文書館所蔵資料から見る水とのたたかい～

江戸時代から現在に至るまで、越後平野では海への放水路が多く造られました。かつては広大な低湿地が広がっていた越後平野の様々な地域で、人々は水とたたかい、新田開発を進めていきました。

文書館第1回目の企画展では、「文書館所蔵資料から見る水とのたたかい」と題して、江戸時代に開削された松ヶ崎堀割と内野新川、そして令和4年に通水50周年を迎えた関屋分水路の工事に関する文書館資料を展示しました。



松ヶ崎堀割 ～現在の阿賀野川流路の形成～

享保15(1730)年、紫雲寺潟(塩津潟)の干拓工事にもなつて加治川流域の排水をよくするため、松ヶ崎浜地内に松ヶ崎堀割が開削されました。しかし、完成した松ヶ崎堀割は、翌年春の雪解け水による洪水で決壊し、阿賀野川の本流となってしまいました。これが現在の阿賀野川の河口部です。下の絵図は、完成した松ヶ崎堀割(左)と決壊後の堀割の様子(右)です。決壊後の堀割の幅は約3倍にも広がり、堀割の修復が不可能だったことがよく分かります。



▲「松ヶ崎悪水吐御普請絵図」
(資料番号 20019896)

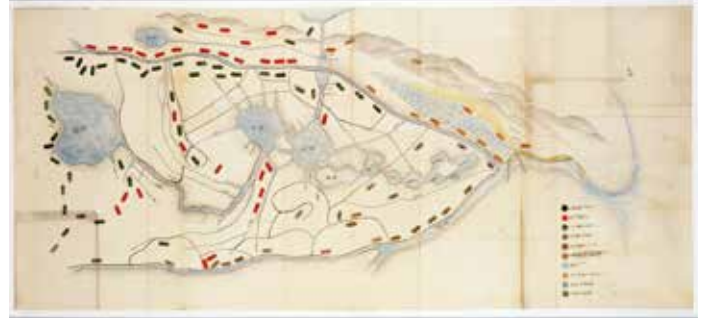


▲「松ヶ崎悪水吐御普請絵図
所段々川欠成り」
(資料番号 20019897)

内野新川 ～近世の大工事、川の立体交差～

江戸時代の西川流域は、三潟(鎧潟・田潟・大潟)をはじめとする大小の潟湖が点在する低湿地帯が広がり、人々は絶えず水害に悩まされていました。三潟の悪水を海へと排水するための堀割(内野新川)は、どうしても西川と交差してしまいます。そのため、西川の下に堀割を通して川を立体交差させるという大工事が行われました。また、内野村裏手の金蔵坂は、高さ10mを越える砂丘が続く難所で、堀割開削工事は困難

を極めました。この地域の人々の悲願であった内野新川が通水したのは、文政3(1820)年のことでした。



▲年不詳「鎧潟田潟大潟悪水抜堀割井坂井輪郷水腐場水抜堀割鹿絵図」
(資料番号 20099823)

関屋分水路 ～「新潟島」の誕生～

江戸時代からその必要性が叫ばれていた関屋分水路でしたが、本格的な建設の検討が始まったのは昭和28(1953)年のことでした。昭和39(1964)年、県は国から工事の認可を受けましたが、6月に発生した新潟地震により計画は頓挫しました。その後、治水事業として分水路の必要性が高まり、国の直轄事業として工事が実施されました。工事に伴い、移転が必要となった家屋は693戸にも及びました。

起工式から約4年後の昭和47(1972)年に関屋分水路は通水し、200億円余りを投じた事業は、昭和56(1981)年に完了しました。関屋分水路の完成によって、市街地は分水路と信濃川に囲まれ、「新潟島」と呼ばれるようになりました。



▲昭和43年 開削工事中の関屋分水路
(資料番号 50003601)

本頁に掲載の資料の目録や画像、令和3年度企画展のパネル(PDFダウンロード)をご覧になる場合は二次元コードを読み取ってください



画像



パネル

新潟市文書館だより 創刊号

令和5年1月発行 発行・編集：新潟市文書館

〒950-3313 新潟市北区太田862番地1

TEL (025) 278-3260 FAX (025) 278-3328

メール bunshokan@city.niigata.lg.jp

※文書館ホームページに「歴史資料だより」のバックナンバーを掲載しております。